

土壌浸透移行粒剤を用いたシキミ吸汁性害虫の防除

森林技術センター

[背景・ねらい]

シキミ切り枝は仏事用供花として一定の需要があり価格が景気動向に大きく影響されないため、シキミ栽培は中山間地域の現金収入源、就労機会の場合として期待される。

高知県は国内生産量の約10%を占める生産地で、平成24年度の生産量は218t、生産額は1億6,600万円であった。

近年、生産者の高齢化等で管理不十分な栽培地が増加し、吸汁性害虫等による被害が多くみられる。これらの防除は噴霧器による液剤・乳剤の散布が行われるが労働負荷が大きい。

本研究は、従来の防除方法より労働負荷を軽減できると考えられる土壌浸透移行粒剤（ダイリグ粒剤）の土壌散布でアブラムシ類およびゲンバイムシ類を防除する技術を検討し、シキミ栽培の作業性の向上を図ることを目的とした。

[新技術の内容・特徴]

1. 夏期のアブラムシ類・ゲンバイムシ類の同時防除が可能である（図1）。
 - 1) アブラムシ類は、粒剤12g/m²散布区、30g/m²散布区とも散布7日後は「効果は低い」が、14日後、21日後とも「効果は高い」となり防除効果がある。
 - 2) ゲンバイムシは、粒剤12g/m²散布区、30g/m²散布区とも散布7日後は「効果は認められるが、その程度は低い」となったが、14日後、21日後とも「効果は高い」となり防除効果がある。
2. 秋期のアブラムシ類防除、ゲンバイムシ類防除にも効果がある。
 - 1) アブラムシ類は、粒剤6g/m²散布区では7日後、14日後とも「効果は高い」、21日後では「効果はある」、粒剤12g/m²散布区では7日後、14日後、21日後とも「効果は高い」となり、防除効果が高いことが示された（図2）。
 - 2) ゲンバイムシ類は、粒剤6g/m²散布区、粒剤12g/m²散布区とも7日後は「効果はある」となった。14日後、21日後については無処理区の虫数減少のため補正密度指数による評価は注意を要するが、散布7日以内での防除効果は確認された（図3）。
3. 薬害試験
夏期・秋期とも、粒剤散布区で薬剤散布による薬害はみられなかった（データ省略）。

[留意点]

1. ゲンバイムシ類については、現在はシキミ（樹木類）での登録がされていない。
2. 適用使用量は12kg/10a（年5回以内）である。
3. 吸汁性害虫以外の害虫については防除効果を確認していないため、従来の防除方法を利用することが望ましい。

[評 価]

噴霧器の持ち込みが困難な斜面や周辺の土地利用等の都合で防除をあきらめていた栽培地、重労働のために防除をあきらめていた生産者が防除可能になり、切枝製品の品質向上につながる。

ダイリグ粒剤（製造元：日本曹達株式会社、販売元：大信産業株式会社）として販売されている。

[具体的データ]



写真1 コミカンアブラムシとシキミ被害葉



写真2 シキミグンバイとシキミ被害葉

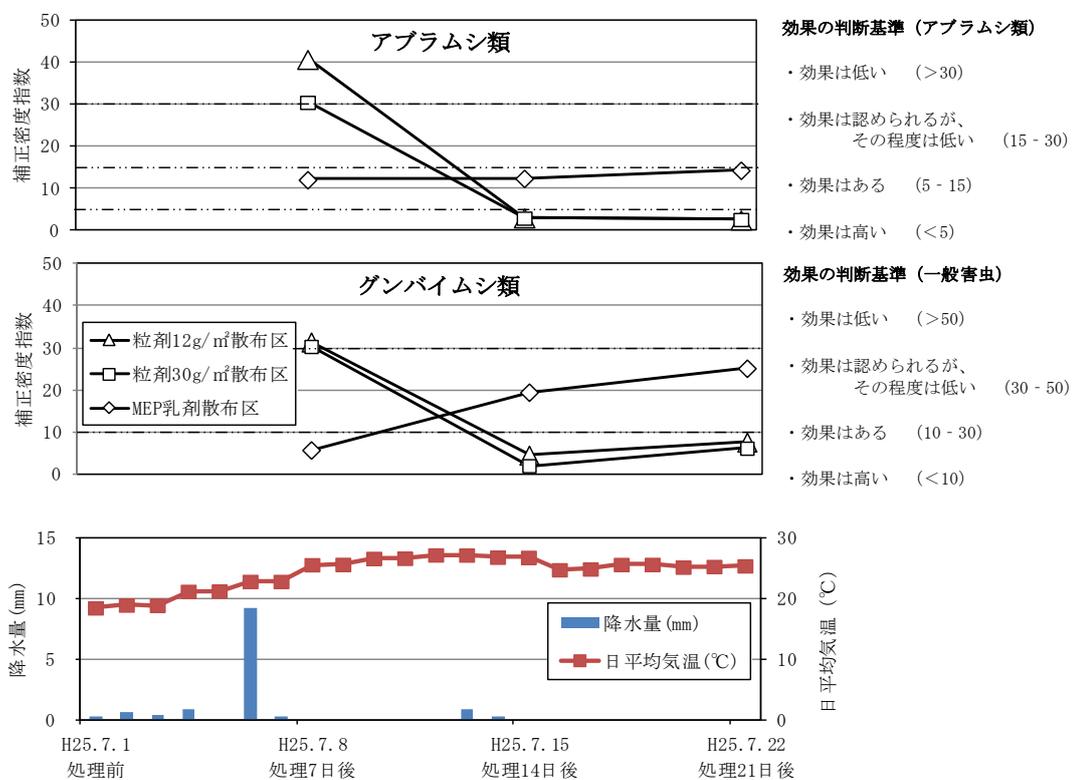


図1 アブラムシ類・グンバイムシ類防除試験結果 (H25年夏期)

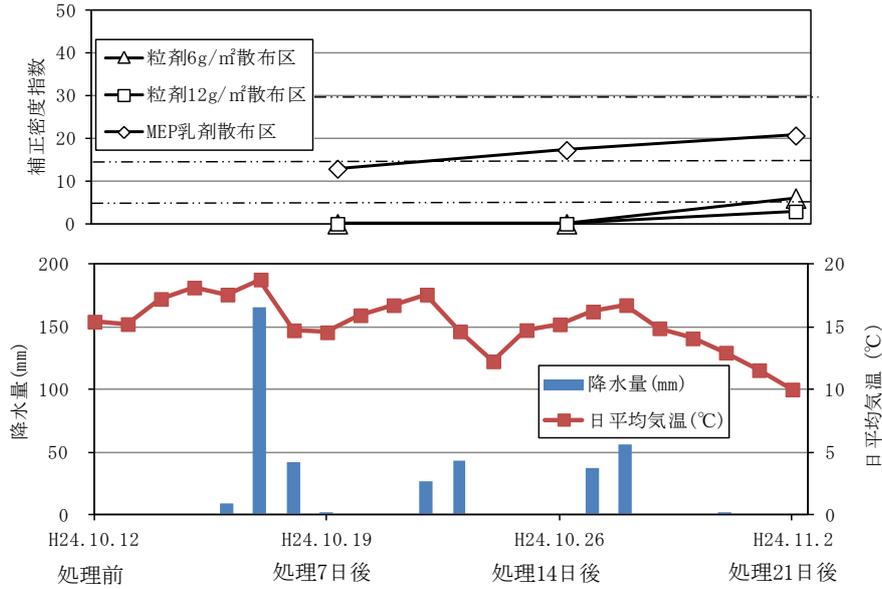


図2 アブラムシ類防除試験結果 (H24年秋期)

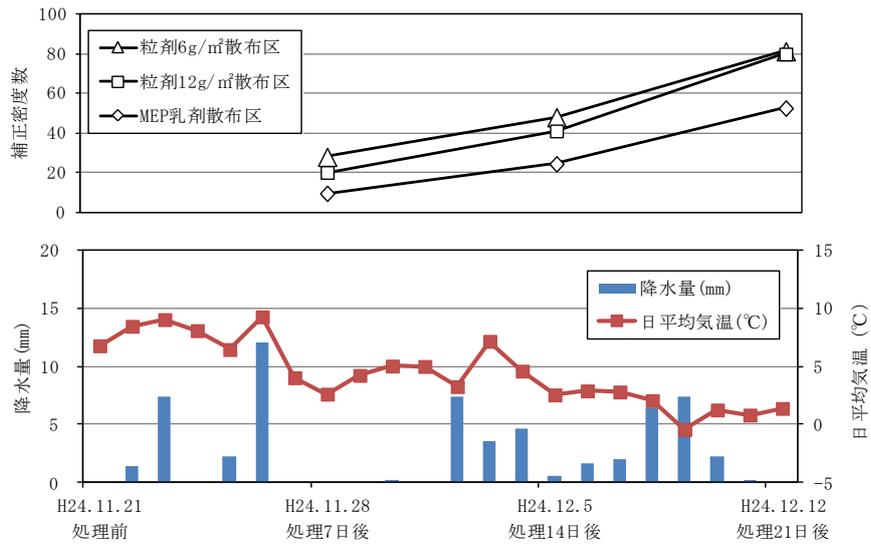


図3 グンバイムシ類防除試験結果 (H24年秋期)

[その他]

研究課題名：シキミ栽培における収益性の改善に関する研究
 (平成24年度要望課題 提出機関：嶺北林業振興事務所)
 林業薬剤協会委託試験 (平成24、25年度)

研究期間：平成24～26年度、 予算区分：県単・受託

研究担当：森林経営課

分類：普及